

## 海外拠点

京都支部

合計額 13,105,435 円

## (1) 文化芸術交流事業

## 【文化芸術交流（主催）】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
1	日本文化体験プログラム	京都市	楽紙館 京都市国際交流会館第4会議室 京都市美術館 丸益西村屋 藤平陶芸 京都市国際交流会館イベントホール 京都迎賓館	公益財団法人 京都文化コンベンションビューロー 財団法人 毎日書道会関西支部	2011.06.10 ~ 2012.02.14	国際交流基金フェロー等日本研究に取り組んでいる外国人に対し、日本文化の成り立ちや背景を肌で感じることができる機会を提供する体験型プログラム。紙漉き・木版画・友禅染の体験、清水焼の登り窯見学や、京都支部の後援名義付与事業である「第63回毎日書道展関西展 国際交流デー」での書道体験、京都迎賓館の見学会参加等を実施
2	トラディショナル・シアター・トレーニング 2011	京都市	大江能楽堂	京都芸術センター	2011.08.12	京都芸術センターは、日本の伝統芸能を象徴する能、狂言、日本舞踊の習得を志して京都を訪れる、海外の演劇分野の日本研究専門家や学生を対象に、毎年夏に日本の伝統芸能集中講座を実施している。3週間の集中的な稽古・指導を受けた参加者たちが成果を市民に披露する発表会を、京都支部が同センターと共催
3	日本映画上映会	京都市	京都市国際交流会館イベントホール	国際京都学協会 財団法人 京都市国際交流協会 第26回国民文化祭 京都府実行委員会	2011.10.06 ~ 2011.11.11	国際交流基金フェロー、関西国際センター研修生に加えて、京都を拠点に活動する外国政府機関の代表者・研究者・留学生等を対象に、日本文化理解を深めることを目的として、英語字幕付き日本映画を精選して計6回（『西陣の姉妹』10月6日、『生れてはみたけれど・・・』10月13日、『めし』10月20日、『雨月物語』10月27日、『序の舞』11月4日、『恍惚の人』11月11日）上映
4	国際交流のタペー能と狂言の会	京都市	金剛能楽堂	公益財団法人 金剛能楽堂財団	2011.10.31	京都をはじめとする関西地域に滞在中の外国人（国際交流基金フェロー、関西国際センター研修生、海外からの留学生、関西の各国総領事館員等）に、日本の伝統文化にふれてもらう機会を提供することを目的に、毎年秋に開催。1974年から実施し、平成23年度で第38回目。演目は、狂言：茂山千五郎（大蔵流狂言師）「鎌腹」、能：金剛永謹（金剛流能楽師）「雪」

## 海外拠点

5	外国語字幕付き 日本映画上映会	大阪市	大阪国際交流センター	財団法人 大阪国際交流センター	2012.02.11 ~ 2012.02.25	映画を通して日本の生活や文化を外国人に紹介することを目的に、日本映画の名作を英語等外国語字幕付きで、上映。作品は、『剣岳 点の記』（12.02.11）、短編アニメ特集『おんぼろフィルム』『展覧会の絵』『ジャンピング』『おこんじょうり』（12.02.18）『かもめ食堂』（12.02.25）
---	--------------------	-----	------------	-----------------	-------------------------	--

## (2) 日本研究・知的交流事業

## 【日本研究・知的交流（主催）】

	事業名	都市	会場	共催機関	期間	事業内容
6	第1回 フェロー講演会	京都市	立命館大学 諒友館	立命館大学国際関係学部	2011.06.27	国際交流基金フェローのアレックス・ベイツ（米国／平成22年度フェロー）が講演会を開催。本件は立命館大学との連携事業であり、国際関係学部の授業に組み込む形で、海外における日本研究の事例紹介という位置づけで実施。テーマは「災害と文学：関東大震災」
7	第2回 フェロー講演会	京都市	立命館大学 諒友館	立命館大学国際関係学部	2011.07.04	国際交流基金フェローのフロリアン・ザイレ（米国／平成22年度フェロー）が講演会を開催。本件は立命館大学との連携事業であり、国際関係学部の授業に組み込む形で、海外における日本研究の事例紹介という位置づけで実施。テーマは「日本の仏教研究への新しいアプローチ」
8	フェローの集い	京都市	京都市国際交流会館特別会議室	財団法人 京都市国際交流協会	2011.11.25	国際交流基金フェロー同士ならびに関係諸機関（外務省関西担当大使、大学、文化・芸術機関、報道関係者）とのネットワーク構築をめざし、簡易な茶話会形式での会合を開催。フェローの出席率はほぼ100%となりネットワーク構築に有益な事業を実施
9	第3回 フェロー講演会	京都市	立命館大学 恒心館	立命館大学国際関係学部	2011.12.06	国際交流基金フェローのマーク・デヴィッド・メツェラー（米国／平成23年度フェロー）が講演会を開催。本件は立命館大学との連携事業であり、国際関係学部の授業に組み込む形で、海外における日本研究の事例紹介という位置づけで実施。テーマは「After the Bubbles: A View in the Historical Long Run」
10	第4回 フェロー講演会	京都市	立命館大学 恒心館	立命館大学国際関係学部	2011.12.13	国際交流基金フェローのパク・キョンミン（韓国／平成23年度フェロー）が講演会を開催。本件は立命館大学との連携事業であり、国際関係学部の授業に組み込む形で、海外における日本研究の事例紹介という位置づけで実施。テーマは「Foreign Residents in the Neighborhood: from a Field Research in a Small Town of Japan」
11	第5回 フェロー講演会	京都市	読売京都ビル	国際京都学協会	2012.03.26	国際交流基金フェローのギータ・A・キニ（インド／平成23年度フェロー）による講演会を開催。国際京都学協会との連携事業であり、国際京都学研究会に組み込む形で実施。講演テーマは「京都の暮らしで得た貴重なこと」

海外拠点

(3) その他の事業 (広報・協力事業等)

【広報・図書館運営・調査】

	事業名	期間	事業内容
12	『国際交流基金 (ジャパンファウンデーション) 京都支部ニューズレター』の発行	2011. 04. 01 ~ 2012. 03. 31	国際交流基金京都支部の事業を紹介するニューズレター。年4回発行 (季刊)

【協力・後援事業・会場提供】

	事業名	主催機関	期間	事業内容
13	第6回京都国際木版画展 (KIWA展)	京都国際木版画協会 (KIWA)	2011. 03. 29 ~ 2011. 04. 03	「世界の木版画を発掘・紹介し、木版画芸術への理解を深めていく」ことを目的に開催されるKIWA展。第6回は世界45カ国300名の作品より約200点を展示。主催者である京都国際木版画協会 (KIWA) に対し、国際交流基金京都支部の後援名義を付与
14	第63回毎日書道展開西展 国際交流デー	財団法人 毎日書道会関西支部	2011. 08. 06	京都市美術館等は、日本を代表する書家の作品や、関西で入賞等の作品を展示する第63回毎日書道展開西展を開催 (11. 08. 03~11. 08. 07)。期間中の8月6日の「国際交流デー」に、京都支部担当の国際交流基金フェローたちが日本の伝統文化の一つである書を実際に体験。東日本大震災被災地に向けての応援メッセージを全員で書き上げ、毎日新聞社を通じ被災地に届けた。同事業に対して国際交流基金京都支部の後援名義を付与
15	YOUNGER ARTIST 11th 発想のゼロ地点	特定非営利活動法人 京都藝際交流協会	2011. 08. 09 ~ 2011. 08. 21	関西にある芸術系及び芸術コースに在籍する、芸術創作活動を志す学生たちの呼びかけに賛同し、自主的に企画実行する6名の作家グループ (ヤンガーアーティスト) の連合展に対して、国際交流基金京都支部の後援名義を付与。参加大学は京都市立芸術大学他計4大学。今年が第11回目の開催
16	2011一日韓国国際交流展	特定非営利活動法人 京都藝際交流協会	2011. 08. 22 ~ 2011. 08. 31	2009年及び2010年にヘイリー芸術村のイベントに日本の作家を派遣したことによりスタートした芸術交流プロジェクト。共通点も多いアジアの隣国として注目される韓国アーティスト13名を迎えて開催された展覧会に対して、国際交流基金京都支部の後援名義を付与
17	立体造形2011	特定非営利活動法人 京都藝際交流協会	2011. 09. 06 ~ 2011. 09. 18	京都を中心とする現代彫刻作家12名による、従来の形にとらわれない自由な立体造形表現のあり方を探る作品展 (陶芸彫刻・音楽と彫刻・泡による造形・植物による彫刻・仏像彫刻等) に対して、国際交流基金京都支部の後援名義を付与

海外拠点

18	平成23年度（第34回）京都国際文化協会エッセーコンテスト「私の見た日本と世界」	財団法人 京都国際文化協会	2011. 10. 02	日本在住の日本語を母語としない人々から「私の見た日本と世界」をテーマに、日本の文化・社会・習慣・世界との交流などについて、自らの文化・社会との対比、あるいは経験に基づいて論考したエッセーを全国から募集。言語は日本語あるいは英語。審査委員会（京都支部長も審査に参加）によって選ばれた日英各々3編の作者を京都に招いて、登壇発表と質疑応答などを通して一般参加者との交流を深化。同事業に対して国際交流基金京都支部の後援名義を付与
19	国際情勢講演会「これから、中国とどう付き合うか—新たな時代を開く日中関係—」	財団法人 京都府国際センター	2011. 12. 10	地域の国際化を巡る諸課題や海外事情、海外文化など世界情勢や国際関係についての講演会を開催し、府内の地域国際化の促進と次代の国際社会を担う人材の育成を図る事業に対して国際交流基金京都支部の後援名義を付与。講演会テーマ「これから、中国とどう付き合うか」、講師：宮本雄二（前駐中華人民共和国大使館特命全権大使／外務省顧問）、講演会テーマ「企業の中国展開 成功例と失敗例」、講師：藤原次郎（京都府上海ビジネスサポートセンター主席代表）、コーディネーター：須藤眞志（京都産業大学名誉教授）
20	第12回LAMP展—富者の万灯より貧者の一灯—	特定非営利活動法人 京都藝際交流協会	2011. 12. 13 ～ 2011. 12. 25	「富者の万灯より貧者の一灯」の主旨に賛同した作家の作品を一同に集め「光の祭典」として開催するLAMP展に対し、国際交流基金京都支部の後援名義を付与。第12回目の今回は東日本大震災の復興をイメージさせる作品が多く出品。まいづる智恵蔵との共同同時開催
21	第9回「書と非書の際（きわ）」展	特定非営利活動法人 京都藝際交流協会	2012. 01. 10 ～ 2012. 01. 22	現代の書芸術を「書とは何なのか」「書と文字はどう関わっているのか」「書家と画家の線・点はどう違うのか」等々、展覧会・シンポジウムを通して検証することを目的に2003年から企画開催。「書」と「非書」の際を探る中に新しい芸術誕生のヒントがひそんでいるのではないか？という趣旨のもと、日本、中国、アイルランド、英国、フランスと東洋、西洋の視点から作家による検証・ワークショップを実施する事業に対し、国際交流基金京都支部の後援名義を付与して支援